

# FMアップルウェーブ 第111回放送番組審議会

開催日時	平成30年8月18日(土) 12:00~13:00
開催場所	土手町コミュニティパーク(弘前市土手町)
出席委員	委員長 石岡 徹、副委員長 鳴海 清彦 委員 佐藤 浩之、渋谷 拓弥、高村 智子、太田 真理子、大西 晶子、櫻山 史子
会社側出席者	代表取締役社長:清藤 哲夫、専務取締役:一戸 勝美、取締役:倉田 正直 放送部統括マネージャー:花田 由香子、チーフ:玉田 雅規、長尾 純一
議題	(1)番組に対する意見要望 (2)次回開催日について 10月13日(土)
議事の概要	<p>○ 各委員が質問と意見や気が付いた点を述べる形で議事が進行した。</p> <p>1) 課題番組 『週末enjoyラジオ どよなび!』</p> <p>① タイトル通り、エンジョイできるような雰囲気、選曲になっている。生中継がおもちゃ病院からだったが、興味深かった。長尾気象予報士の雰囲気も以前より明るくなっていて聴きやすくなった。弘前学院大学の学生が月イチ出演しているが、学生から様々な話題が発信されているのが良い。部活動中継の『スクール☆ナビ』は回答が同じようになってしまう質問なので、工夫が必要なのでは。</p> <p>② 3時間の生放送、時間ごとにテーマがあって聴きやすい構成。それぞれのBGMも内容に合っていて良かった。弘前の学生が入学前と入学後に思っていたこと、感じたことを素直に話していたのが良かった。下宿と学校とのつながりについては、ネガティブな話だけでなく、プラスの展開も欲しかった。</p> <p>③ 内容も充実していて、スタジオや中継先でさまざまなパーソナリティや市民の出演者が登場していた。言葉遣いに幾つか気になる箇所があった。言葉に詰まって言葉を選んでいる場面があったが、放送として常にふさわしい言葉を発するべき。</p> <p>④ 継続して開催しているイベントの中継は、聴いていて向かうことが出来なくても、次回出かけてみよう、という気持ちになれるので、嬉しい情報。幼稚園・保育園や、小学校卒業時などで弘前市の子ども達にはアップルウェーブに出演する機会があり、中高生の思春期の生徒たちも抵抗なく出演できているのでは。</p> <p>⑤ 咄嗟の場面で普段の素の部分が出てしまう。言葉遣いなど、日頃から気を付けなければならない。出演する学生から不適切な表現が出てしまったときは、番組パーソナリティがカバーできるような語彙力がなければならない。生徒たちへのインタビューは相手の個性ができるような質問をする工夫が必要。天気予報はインフラ。エンタメ性なども持たせ、リスナーがラジオで楽しく天気予報を知り得る工夫をしてほしい。</p> <p>⑥ 校名を何度も言い過ぎ。言い回しが不適切だと感じる場面があったので、語彙力をもっと付けなければならない。番組としてはコーナーが充実していて、土曜日を楽しく過ごすためのラジオ番組になっている。子どもたちがおもちゃ病院を活用することでモノを大切にすることが育っていくのでは、と思うので、どんどん取り上げてほしい。</p> <p>⑦ 土曜日をナビゲートする番組として、冒頭にコンテンツを紹介するなどの工夫があった。おもちゃに対して「くたばる・くたびれる」という表現は良くない。生放送中の不適切表現をチェックする体制も必要。中継再放送の編集部分にノイズが入らないように編集するべき。土曜の午後の様々な過ごし方を紹介する良い番組。</p> <p>⑧ さまざまな内容を取り上げた、飽きの来ない番組。弘前という町の特徴をとらえた、アップルウェーブでなければできない個性的な番組になっていた。中継リポーターのインタビュー内容は良かったが、やはり中学生は似たような回答になってしまうので、それを予想したうえで進めていかなければならない。</p> <p>【審議機関の答申または改善】 ・長時間で、フリートーク中心の番組は話題の取り扱い方など番組パーソナリティの資質が問われる。日ごろから感性を磨き、どういう情報を発信していくか精査していかなければならない。</p> <p>【審議機関の答申または改善意見の公表】 1) 議事録を本社に配備し、社内各部署に配布 2) FMアップルウェーブのホームページに掲載</p>